

要 約 会 議 録

会 議 の 名 称	子育て世代と市長との意見交換会
開 催 日 時	令和5年11月19日(日) 13時30分開会・15時35分閉会
開 催 場 所	市民交流センター 大交流室
出 席 者	市長、副市長、教育長、総合政策部長、経営管理部長、 危機管理監、地域振興部長、生活環境部長、保健福祉部長、 こども未来部長、産業振興部長、都市建設部長、 都市建設部技監、教育次長 (事務局) 広報課
参 加 人 数	18人
会 議 事 項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 出席者紹介 3. 市長あいさつ 4. フリートーク 5. 閉会
会議の経過 (議事の要旨)	別紙1のとおり

発 言 者	議 題 ・ 発言内容
◎事務局	1. 開会 【資料の説明】
◎事務局	2. 出席者紹介 市長あいさつ 【市長・副市長・教育長の紹介】
◎参加者	3. フリートーク（司会：高村フリーアナウンサー） （進行補佐：松本 TOCHICO 日和編集長） ・アレルギーを持つ児童生徒の生活面でのメンタルケアについて、担任の先生方の研修を行っているのか。 それと、意見交換の機会として、さらに深掘りした話ができるような場というのを設けていただけると、ありがたいなと思います。
◎参加者	・うちの子供たちはアレルギーではないのですが、ずっとマスクをしているのが苦しかったみたいで、鼻を出してしまう。先生にはその旨を伝えて、配慮をしてもらっていますが、周りとの温度差みたいなのを感じました。
◎教育次長	・給食に関わる職員に対しては、アレルギーそのものへの理解や、安全対策に関する研修を進めておりますが、メンタルケアも大切なものと捉えておりますので、周りの先生方だけではなく、給食の時間や学級活動を通して、子供たちへの啓発を進め、アレルギーを持つお子さんが孤立しないように、進めてまいります。 また、感染症についても同じだと思います。正しい理解のもとに、正しい対応をしていくということだと思いますので、教育活動を実践する中で、先生方や子供たちも含めた、全体で理解を深めてまいります。
◎教育長	・誰 1 人取り残さない教育をとということで取り組んでおりますので、様々な教育活動の中で多様性という考え方を広げていくようにしていきたいと思います。
◎参加者	・近所の一人暮らしのお年寄りの方に挨拶をする機会があるのですが、もう少し交流ができればお互いにいいのかなと思います

<p>◎参加者</p>	<p>つも、交流を深められずにいる。</p> <p>一方で、頼る人がいない、孤独な子育てをされている方も見受けられるので、その辺を繋げてあげることができたらいいのかなと思っています。</p> <p>・私の自治会では、自治会と育成会とが一緒になって、輪投げ大会などのお祭りを、全ての世代が一緒に取り組んでいるので、やはり地域によって差があるのかなと思いました。</p>
<p>◎参加者</p>	<p>・市内の子ども食堂に見学に行きましたが、お年寄りの方が若い方と一緒にあって、小さい子どもと一緒に接して遊んだりしていたので、声をかければ手伝ってくれるお年寄りの方はいると思いますし、そういったボランティアなどを通して、子ども食堂等の活動に繋げて頂けるとありがたいなと思います。</p>
<p>◎保健福祉部長</p>	<p>・価値観や育ってきた環境の違う多世代間で、どのような交流ができるのか、大きな課題として捉えています。</p> <p>栃木市は、子育てに関心のある人たちや同年代が集まる会議など、所謂テーマ別での集まりは活発なので、そこ自治会や地域の活動とを、どのように結び付けていくか、皆様方からも知恵をお貸しいただきながら、考えていきたいと思っています。</p>
<p>◎参加者</p>	<p>・栃木市として、民間の団体が行っている子育ての取組みやイベント等を、もっと子育て世代の人がわかるように、SNSやホームページ等を活用し、情報発信をして欲しい。</p>
<p>◎参加者</p>	<p>・多世代が交流する場や情報をみんな求めているが、その場がない。自治会に参加する人が少なくなっている一方、シルバー世代も本当は小さい子たちと交流して元気をもらいたいと思っている。</p>
<p>◎参加者</p>	<p>・行政の方では、小さなイベントまで、全ての情報発信はできないという事情もわかるので、官民連携の面で、ハブ的な役割をする人たちを増やしていくしかないのかなと思っています。</p>
<p>◎参加者</p>	<p>・実例として、おもちゃ図書館ではボランティアさんとして、75歳以上の方も何人かいらっしゃいますので、子育てが終わった50代ぐらいの方に対して、ボランティアへの呼びかけみたいなことが、出来ればいいのかなと思います。</p>

<p>◎司会</p>	<p>70代の方などは、子供とすごく上手に遊んでくださっていて、自分も元気をもらえて楽しい、と喜んでくれる方がいらっしやいますので、そういう場が多くなるといいなと思います。</p>
<p>◎参加者</p>	<p>・子育てシーンでお年寄りが活躍している場所がもう既にあるということなので、やはり情報は届かないと無に等しくなってしまうので、ぜひ今日聞かれた方で、また発信をしていただけたらと思います。</p> <p>・学童保育の先生や指導員の方たちは夕方だけの勤務で、勤務時間も変則的で短いですし、現場の先生に聞いてみたら、余裕がないというか、大変だと言っていました。</p> <p>子供たちが安心して遊べる場、学べる場を作るためには、まずは指導員の方たちの対応であるとか、環境をもうちょっと考えてあげていただきたいなと思います。</p>
<p>◎司会</p>	<p>・私も個人的に、学童の先生には頭が上がりなくて、学童の先生方がいなかったら、うちの子もここまで来られなかったなというぐらい感謝しています。</p> <p>でも、待遇について聞くと、それでずっとやってくださっているのか、とびっくりしまして、全国的に厳しいというのは聞いていますが、この問題はそう簡単に改善できないものなのでしょうか。</p>
<p>◎教育次長</p>	<p>・公立の学童施設は、市内に40教室あり、それぞれの先生方がいろいろ考えて実施をしているのが実情ですので、利用者のニーズや学童支援員の方へのアンケートや意見なども確認しながら、対応していければと思っております。</p> <p>また、人的な部分ですが、夏場に関しては、普段であれば学校の各教室に入っている学校の支援員さんが、夏休み中は仕事が空きますので、対応が可能な方に、学童支援員さんの補助に入っているのが実情です。</p>
<p>◎司会</p>	<p>・先ほどの話と合わせますと、例えばそこに70代の方々がうまくマッチングして、その隙間を埋めたりしていければ、というご意見もありましたが、そういったことは難しいですかね。</p>
<p>◎参加者</p>	<p>・難しいと思います。他の自治体で、そういった一緒に居られる場が出来たというニュースを見たことはありますが、いざそ</p>

	<p>ういう場を作るとなると難しいと思う。人が集まればいろいろなアイデアが出てくると思いますので、今は学校に空き教室が増えていますから、そういったものを活用するなど、その第一歩が欲しいかなと思います。</p>
◎こども未来部長	<p>・ちょっと昔の話にはなりますが、生涯学習の一環として、ある地域の小学校で、地域の老人会の方に放課後子供教室という事業をお願いした経緯があるのですが、年間を通してずっと継続していくとなると、やはり疲弊してしまう。</p> <p>やり方の難しさというものがありますが、定期的じゃなくても、子供と接することによって、また明日が楽しみだなと思われるような、そういった事業は必要だと思いますので、検討していきたいと思います。</p>
◎司会	<p>・保護者の皆さんも、そういったことを望んでいるというところもありますので、ご検討いただければと思います。その他、働きながらの子育てというところで、ご意見いかがですか。</p>
◎参加者	<p>・学童のおやつに関してですが、これは各学童によって内容は違うのでしょうか。毎日同じ駄菓子セットなので、美味しいけど、毎日だとどうなのかなと思います。</p>
◎参加者	<p>・お菓子を五個選ばなくちゃならないと言われて、子どもがすごく苦痛だったみたいです。1人1日100円とかの予算があるからだと思いますが、休みの日にまとめていただくとか、もうちょっと柔軟にお願いしたい。</p>
◎参加者	<p>・駄菓子よりは、市販のおにぎりですとか、もし内容を変えられるのであれば、変えてほしい。</p>
◎司会	<p>・こういった意見が、普段は届いていなかったのかもしれないですね。ほぼ皆さんうなずいていましたので、もしかしたらお子さん側と用意する側とで、ギャップがあるのかもしれないですね。</p>
◎こども未来部長	<p>・今お話のありました、保護者目線で言うと栄養面でどうなのか、といったご意見などを踏まえまして、どのようにすべきか、現場の方と相談させていただければと思います。</p>

◎参加者	<p>・市内には産科が1カ所しかなくて、県内でも多分少ないと思います。ホルモン注射を打つのに何回も病院に行かなくてはならないことがあったのですが、時間帯にも寄りますが、病院の中でも2、3時間くらい待つのが当たり前で、仕事に支障が出てしまった。</p>
◎参加者	<p>・メンタル的な部分で、市内だと知人に会うことがあるので、不妊治療をしているなどの事情があると、かえって市外に出た方が知り合いに会わなくていいという場合もあるので、市内に出来たからといって、そこに行くのかと言われてたら、難しい問題かなと思います。</p>
◎保健福祉部長	<p>・現在、お子さんが少なくなってきていて、栃木市で年間に生まれるお子さんが700人ぐらいになっています。市内に出産できる病院が一つで、そこで6割から7割ぐらいの方が出産されていて、高齢で出産される方等が自治医大の方で対応しているという方が1割ぐらい、残りの方についてはご自身で、条件に合う医療機関を探して行く、というのが市内の現状となっています。</p> <p>医療機関も使う人がいなければつぶれてしまいますので、出来るだけ市民の皆さんに受診をしていただく。そうやってその医療機関を守っていくという支援の考え方も必要なのかなと思います。</p>
◎司会	<p>・時間をかけて行くのが大変というだけじゃなくて、小さなお子さんを乗せていくのが大変だということなら、預かり保育があればだいぶ楽になると思いますし、有給がもっと使えるようになるとか、利用の仕方の改善もあると思いますので、ソフト面の解決策もあるかもしれないと思いました。</p>
◎参加者	<p>・子供をお持ちのお母さん等に向けたイベントを主催していますが、民間の活動がじわじわと広がって、市役所とのコラボで大きくなったらいいなと思いますので、学校や図書館にチラシを置いてもいいよ、というオープンな感じだと、置きに行きやすいので、そういったイベント、ウェルカムですという、オープンな施設が増えると嬉しいなと思います。</p>
◎参加者	<p>・市内でワークショップ等を開催する際などの周知について、地域の皆さんが訪れる市内のショッピングモールですとかス</p>

	<p>ーパーや、学校の図書館といったところに、市民活動の掲示コーナーみたいな、情報をもっと拡散できるようなものがあればと思っています。</p>
◎司会	<p>・市の広報だと2ヶ月ぐらい前に締め切りが来てしまうので、民間の皆さんはフットワークが軽いので、イベントをやろうとしてからだに間に合わないということもありますかね。</p>
◎広報課長	<p>・基本、市の後援というところが掲載の基準にはなりますが、皆様からどんどん記事が寄せられていて、見ていただけると分かりますが、32ページある紙面がキツキツなので、イベントの規模などで掲載の判断をさせていただいております。</p>
◎司会	<p>・広報以外の手立てはないですかね。例えば、先ほど市へのお願いがありました、スーパーに市民活動の掲示コーナーを作ってもらおうとか、また、市役所や市民交流センターの壁一面をお借りして、チラシを貼らせていただくとか。</p>
◎参加者	<p>・教育委員会の後援をいただいているチラシを学校で配布して欲しいとお願いをしたことがあります。が、学校長の裁量で配られなかった学校も実際にありました。</p> <p>また、市の広報の情報欄はすごく活用したいし、子育て世代には児童館とか図書館とかの情報があつていいのですが、できれば子育て世代に特化したページとか、チラシなどを挟んでもらうなどの工夫をして欲しいなと思いました。</p>
◎司会	<p>・例えばインターネットとかだと、ハッシュタグでいくつかの区別ができますよね。紙面で子育て版が難しいなら、インターネット上で工夫すると、もうちょっとできそうな気がします。</p>
◎参加者	<p>・栃木市は過去2回の水害を経験していますが、もう忘れ去られているところがあるのかなと思います。これから地震などの災害は、何時起きるか分からないし、子育て世代とか妊婦さんはすごく大変な思いをしたことを、やはり記録として残して、次に繋げないといけないなど、ずっと思っています。</p> <p>水害の時には、学生にすごく助けられました。日頃の地域のコミュニケーションがあつたら、あそこの家の方が大変だから助けようとか、もうちょっと多世代が日頃から繋がっていれば、日々助け合えると思います。</p>

	<p>私が住んでいる富士見町の自治会では、今、全戸調査で、災害に備えてどんなことが必要か、アンケートを取っていますが、実際に被害に遭った方にしかわからないこともありますので、小さい子から学生、大人まで連携して、栃木市の防災ということを教育体験として、広めてほしいなと思っています。</p>
◎参加者	<p>・私は学校に勤めていて、実際4年生の授業では、私自身が体験した写真を見せて、こんなに大変だったんだよという実体験を含めて、子供たちには伝えていますが、これから、そういった話しというのを受け継いでいけるといいかなと思います。</p>
◎市長	<p>・女性もそうですが、若い人たち、子育て世代の人たちも地域の避難所などの運営にも関わっていく、それが誰にでも対応できる避難所運営に繋がっていくと思っていますので、災害対応は男性だけがやればよいということではなくて、女性も男性も若い人たちも、みんなで関わっていくことがスムーズな災害対応に繋がると考えていますので、ぜひ富士見町のような活動を積極的に、あちこちに広めていければいいなと我々も考えています。</p>
◎参加者	<p>・今の子供たちに不登校が増えている要因として考えられるのは、夏場は40度を超えるような気候の変化もありますし、理不尽な校則など、今の窮屈な学校のスタイルにもあると思いますので、柔軟に対応してもらいたい。</p> <p>栃木市では、官民連携の情報交換会の場を設けていただいていますので、引き続きそういう取り組みをしていただきたいと思います。</p>
◎参加者	<p>・息子が不登校傾向ですが、この「不登校」という名前もどうかと思っています、本人たちは一生懸命頑張っているのに、「不」をつけられてしまうことに悲しさを感じますし、選択登校とかそういう名前がいいのではないかなと思っています。</p> <p>今の学校は教室に行けない＝学べないになってしまっている。授業が行われている様子を別教室で見られたら、一緒に学べることと私は変わらないと思いますし、インフルエンザやコロナ等で学校に来られない子も、学びが止まらないのではないかと思います。</p>
◎参加者	<p>・子供が不登校になったときに、親は本当に心配でパニックに</p>

	<p>なっているのだと思います。誰でも不登校になる可能性があるということを、先生1人1人に本当に理解していただいて、子供に対してだけでなく、親に対する発言に対しても、理解のある対応をしていただきたいなと思っています。</p> <p>また、小・中学校の統合について、大人数だとやっていけないということで、学区外登校を認めていただいて、寺尾中に進学していますが、寺尾中が統合することになって、統合した後は多分全校生徒で300人とかになるとは思います。もしそこだったら、うちの子は行けませんでした。多様な学びと言われている中で、選択肢をできるだけ多く提供していただきたいなと思っています。</p>
◎教育長	<p>・不登校の子供たちには、オーダーメイドの対応が必要です。100人いれば100通りのパターンがある。そのためには、やはり教員の意識改革が大切なので、各学校の校長先生によくお話をし、不登校生徒の対応のあり方をしっかりと理解してもらい、できるだけ校内版の支援センターを作ってもらえるように、今市教委からお願いをしているところです。</p> <p>少しずつ一歩一歩ではありますが、1人も取り残さないという思いで、勉強しながらやっていきたいと思っておりますので、今後ともご協力をよろしくお願いいたします。</p>
◎参加者	<p>・子供が中学校卒業に向けて、市内のNPOのフリースクールに行っていますが、ありがたいことに出席扱いということで対応していただけていますが、中学校では出席扱いにはなるけれども、受験をする際には該当にならなくて、同じように受験することは難しいですという説明がありました。</p> <p>中学校迄は義務教育ということで、様々なサポートをいただけていますが、その先ということになると、自分で選択していかなければならないということで、ものすごく不安が大きい。</p>
◎教育長	<p>私の認識では、校長先生が個別に認めた場合には、出席扱いになると認識しておりますが、この後、個別に詳しくお話を伺わせていただきたいと思います。</p>
◎参加者	<p>・こういう場に来ると、教育長さんや市長さんや皆さんが、熱い思いを持っていらっしゃる事が伝わりますので、こういう機会はすごく大事だと思います。</p> <p>様々な情報が私たちのところまで届かないという意見があ</p>

	<p>りますが、こういう会議をいっぱい作っていただくと、教育長さんがこういう熱い思いをもっているんだよって、私が知り合いに伝えられるので、どんどんこういう会議を作っていただいて、みんなの熱さが伝播していけばいいなと思いました。</p>
◎参加者	<p>・適応指導教室の開設時間について質問を書かせていただきましたが、回答では9時からとなっております。これだと働きながらの子育ては不可能だと思います。</p>
◎参加者	<p>・放課後デイに通っていますが、仕事が終わってから、30分くらいかかるのですが、私がいなくても送迎してくれる、もしくは、息子は学校に行っておりませんので、自宅から直接行って直接帰って来られる、そんな放課後デイがあるといいなと思います。</p>
◎参加者	<p>・教育長さんがおっしゃっていたように、柔軟性とその子に合ったカスタマイズがもっともっと進めばなと思っています。タブレットなどの環境を整えるとのことですが、学校に任せるのではなく、トップダウンが必要かなと感じています。</p>
◎参加者	<p>もう一つは、不登校もそうですが、子育て支援としては親支援というの、大切かなと思います。子育て支援も大切ですが、親の大人の支援もお願いしたいと強く思います。</p>
◎広報課長	<p>・ありがとうございました。それでは最後に大川市長から本日の総括を申し上げます。</p>
◎市長	<p>・凄く中身が濃いトークができたという事だと思いますが、時間があっという間に過ぎてしまいました。行政への要望というよりは、こうしたらいいのではという、皆さんから良い提案をいただいたと、我々は受け止めております。</p> <p>一つ一つ私の子育ての過去を振り返っておりますけれども、お腹が痛くなって朝学校に行きたくないと言われた時、もう大変なショックですよ。親が絶対的な味方になるということかなと、経験から思います。やはり親が子どもの最大の味方になることです。そうすれば大丈夫ですから。元気に子育てしていきましょうということで、締めさせていただきます。ありがとうございました。</p>
閉会	